

児童がお互いの多様性を認め合うための

# 附属小モデル

(令和5年度版)



令和5年  
大分大学教育学部附属小学校

# 目次

## 1. 性の多様性に係る本校の取り組みの背景

生徒指導提要（令和4年度改訂版）より（抜粋）・・・P2

## 2. 「性的マイノリティ」に係る附属小学校の取組・・・P4

## 3. 多様性に係る附属小学校の取組・・・P5

## 4. 令和5年度附属小モデル構築に係る取組・・・P7

## 5. 令和5年度附属小モデル・・・P11

## 6. 令和5年度附属小モデル

～各学年道徳科学習指導案～・・・P14

## 7. 令和5年度取組総括・・・P26

## 8. 参考資料・・・P30



# 1. 性の多様性に係る本校の取り組みの背景 生徒指導提要（令和4年度改訂版）より（抜粋）

大分大学教育学部附属小学校（以下附属小学校）では、令和5年度以前より、朝活動で行うフリートークやほめ言葉のシャワー、価値語や成長ノートの取組、笑顔アンケートやアセスなどによる児童の客観的な把握、大分県教育委員会の掲げる「新大分スタンダード」による授業の確実な実践等、児童一人一人を大切にしたい取組を行ってきました。しかしながら令和4年度改訂の生徒指導提要改訂や近年の社会情勢の変化等に対応すべく、附属小学校でも性の多様性に対する取組の見直しの必要性が出てきました。また、児童の身近な課題として令和6年度から制服が見直されることとなりました。どの児童も男女関係なく安心して制服を選べるようにするためにも、性をはじめとする一人一人の多様性を認め合う教育を推進していくことが求められています。

## ・12.1.1 性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律

学校における性同一性障害に係る児童生徒への支援についての社会の関心も高まり、その対応が求められるようになってきました。「自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する」ことの必要性が示されました。

## ・12.1.2 学校における性に関する指導

学校における性に関する指導は、（中略）体育科、保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて指導することとされています。[\*130]。指導に当たっては、・発達の段階を踏まえること・学校全体で共通理解を図ること・保護者の理解を得ること・事前に、集団で一律に指導（集団指導）する内容と、個々の児童生徒の状況等に応じ個別に指導（個別指導）する内容を区別しておくことなどに留意し、計画性をもって実施することが求められています。

[\*130] 学習指導要領解説（保健体育編）

## ・12.4 「性的マイノリティ」に関する課題と対応

個別の事案に応じ、児童生徒の心情等に配慮した対応を行うこと

### ・12.4.1 「性的マイノリティ」に関する理解と学校における対応

性的マイノリティに関する大きな課題は、当事者が社会の中で偏見の目にさらされるなどの差別を受けてきたことです。教職員の理解を深めることは言うまでもなく、生徒指導の観点からも、児童生徒に対して日常の教育活動を通じて人権意識の醸成を図ることが大切です。

## 学校に求められる具体的な対応

①適切な生徒指導・人権教育等を推進すること

②教職員自身が理解を深めるとともに、心ない言動を慎むことはもちろん、見た目の裏に潜む可能性を想像できる人権感覚を身に付けていくこと

③教職員間で情報共有し組織で対応すること

当事者である児童生徒やその保護者に対し、情報を共有する意図を十分に説明・相談し理解を得る働きかけ

④「性的マイノリティ」とされる児童生徒への配慮と、他の児童生徒への配慮との均衡を取りながら支援を進めること

## 2. 「性的マイノリティ」に係る本校の取組

第1項に示された「学校に求められる具体的な対応」に合わせて、附属小学校では、「性的マイノリティ」に関して以下の通りに取り組んでいきます。これらの取組は、児童がお互いの多様性を認め合うための附属小モデルの前提となるものです。

### ①適切な生徒指導・人権教育の推進

- ・生活指導年間計画や、人権・同和教育の全体教育を基にした指導、教育の適切な実施

### ②人権研修を軸とした人権感覚の涵養

- ・人権研修の確実な実施
- ・学年部を中心とした実践の振り返り
- ・日常の教員の発言や環境の適宜見直し

### ③組織的な対応

- ・学年部やいじめ担当、人権教育担当、養護教諭、生活指導主任、教務主任、指導教諭、主幹教諭等でチームを構成し、各実態に合わせた組織的な対応を行う。

### ④児童生徒への支援

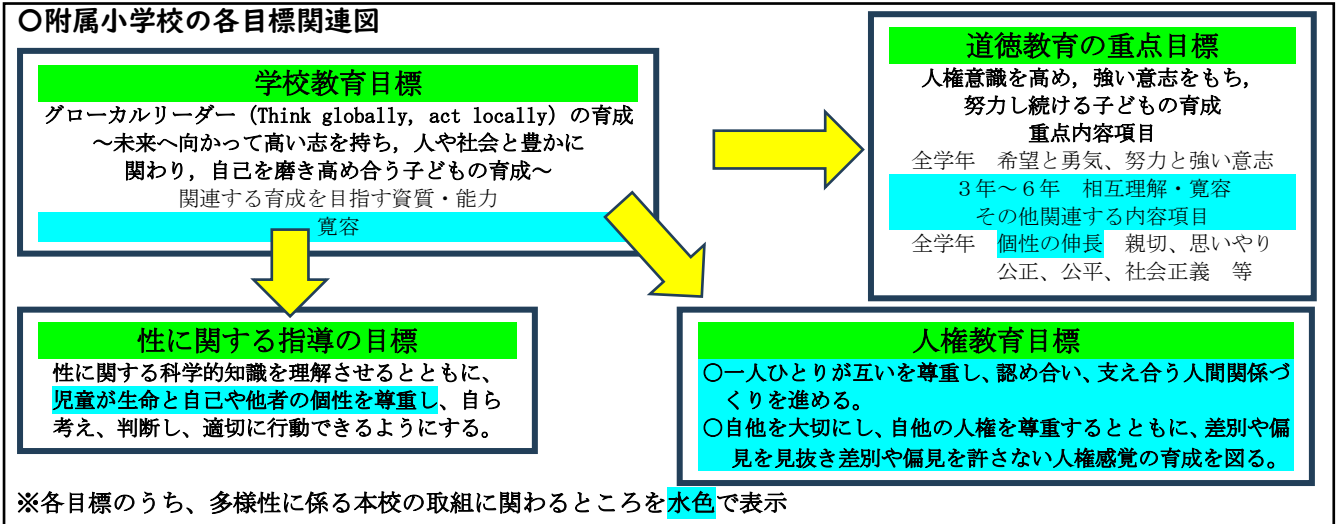
- ・きまり担当や生活指導部、管理職と連携をとり、児童生徒の支援となり得るようにきまりの見直しを行う。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携を図り、相談体制を構築する。



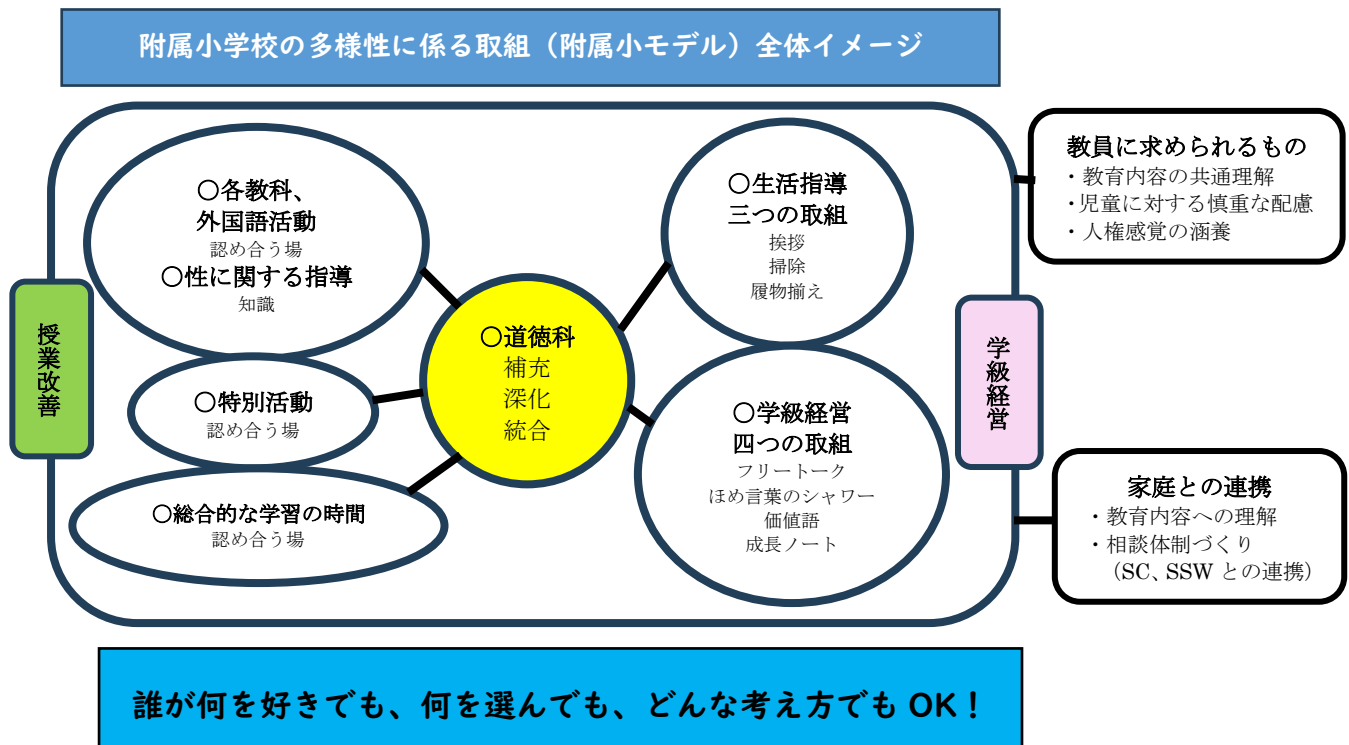


### 3. 多様性に係る本校の取組

性をはじめとする多様性に係る取組は学校教育活動全体を通じて行うことから、学校教育目標をはじめ、関連する道徳教育の重点目標や人権教育目標、性に関する指導の目標の達成につながるものである必要があります。



多様性については性だけでなく、国や文化、宗教、家族、しょうがい、考え方など多くの要素があります。したがって附属小学校では、性だけに特化せず、一人一人の多様性（違い）を認め合う、個性を尊重し合う教育を大切にしていきます。このような教育は学校教育活動全体で行うべきものですので、同様に学校教育活動全体で行う道徳教育・人権教育の枠組みで捉えていきます。また、教員自体の多様性の理解や家庭との連携を合わせて行っていくことも大事です。



道徳教育の枠組みで捉えるため、道徳科の授業が要となります。各教科等や学級経営との関連を図ることはもちろん、道徳科の授業を行う際の留意点や道徳科で何を行うかの共通理解を全職員で行う必要があります。附属小学校では道徳科の授業では以下に示す点を共通理解しています。特に誰かの授業ではなく自分事として捉えること、アウトティングに繋がらないことには十分な配慮が必要です。

#### R5 道徳科で何を行うか（留意点）

- ・ 各発達段階に合わせた多様性を認め合うことの大切さを理解する授業
- ・ 内容項目は「相互理解・寛容」もしくは「個性の伸長」
- ・ 道徳科に合わせて、ねらいや評価の着眼点を設定する
- ・ 何をねらうか（心情、判断、実践意欲と態度）は学年や学級の実態に応じて
- ・ 先日行った制服改訂の周知の授業を振り返る等、来年度の制服改訂とつなげ、自分事として捉えられるように
- ・ アウティング（該当者の特定、公表）にならないように



## 4. R5 附属小モデル構築に係る取組

附属小学校では、研修を中心に教職員全体で推進の方向性を共通理解しています。また、人権研修を毎年必ず開催し、教職員の人権意識の涵養を図っています。特に令和4・5年度では、性の多様性について研修を行っています。研修の様子は学校のホームページにも掲載しています。道徳科の授業作りにおいては、学年部を中心に行い、指導案を附属小学校道徳部や道徳研究会（附属小学校道徳部と附属中学校道徳部、大分大学教育学部教員で構成）の間で往還しながら進めてきました。また、実際の授業については、教員と児童だけのものにせず、PTA の場で保護者にも周知し、各家庭でも多様性について話す機会がもてるようにしました。

### 令和5年度取組の実際

#### (1) 4月【道徳研修】

- 本年度の道徳教育全体計画等の確認

#### (2) 7月【各学級で児童に次年度の制服改定の周知】

- 「誰がどんな制服の選び方をしてもいい」「みんなちがってみんないい」  
多様性を認め合うことの大切さへの気付き

#### (3) 8月【道徳研修による職員周知】

- 多様性を認め合う教育の目的の確認  
学校教育目標（道徳教育の重点目標・性に関する指導の目標）の達成
- 多様性を認め合う教育を道徳教育（人権教育）として学校教育全体で行うことを確認
- 6年間を見通した多様性を認め合う教育の取組＝附属小モデルについて  
→幼・小・中・特支との連携を通して附属モデルに
- 道徳科で多様性を認め合う授業を全学年、全学級が行うことを確認  
留意点
  - ・各発達段階に合わせて ・内容項目「相互理解・寛容」「個性の伸長」
  - ・ねらい（学年や学級の実態に応じて）や評価の着眼点の設定
  - ・制服改定とつなげ自分事として捉えるように ・アウトティングにならないように

#### (4) 9月【各学年による道徳科指導案の作成】

- 道徳部との指導案の往還で話題になったこと
  - ・内容項目とめあてや課題がつながっているか
  - ・支援を要する児童への手立てが講じられているか
  - ・自分事として考えられる手立てが講じられているか
  - ・多面的・多角的に考えられる手立てが講じられているか

## (5) 10月【道徳研究会における各学年の道徳科指導案の審議】

○道徳研究会で話題になったこと

- ・内容項目とねらいの整合性
- ・内容項目と関連する内容項目の比重
- ・きめつけや偏見に対する教師側の共通理解
- ・自分達の行動を考える前に本質的な価値への気付きが大切
- ・データの活用（各国ごとの男女比のデータから違いに気づく等）
- ・教材の扱い方（ねらいに合っているものか、自伝等具体の姿で学べるか）
- ・低学年児童の価値観の捉え
- ・個々の性自認だけでなく、家族構成や家族の職業等配慮すべき事項は配慮を
- ・抽象的な事項（他人事）から具体的な事項（自分事）へ

## (6) 11月～12月

**児童**

【各学年による道徳科学習】（日時に合わせて道徳研究会による参観）

**教師**

【人権研修】（最新の人権教育の動向の理解、人権感覚の醸成）

【授業後の各学年による振り返り】（今後の指導や次年度に向けた成果や課題、及び授業改善）

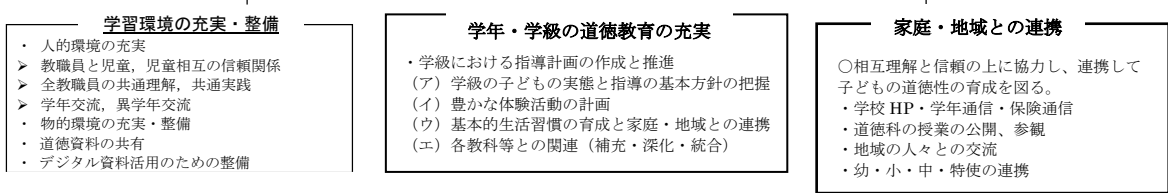
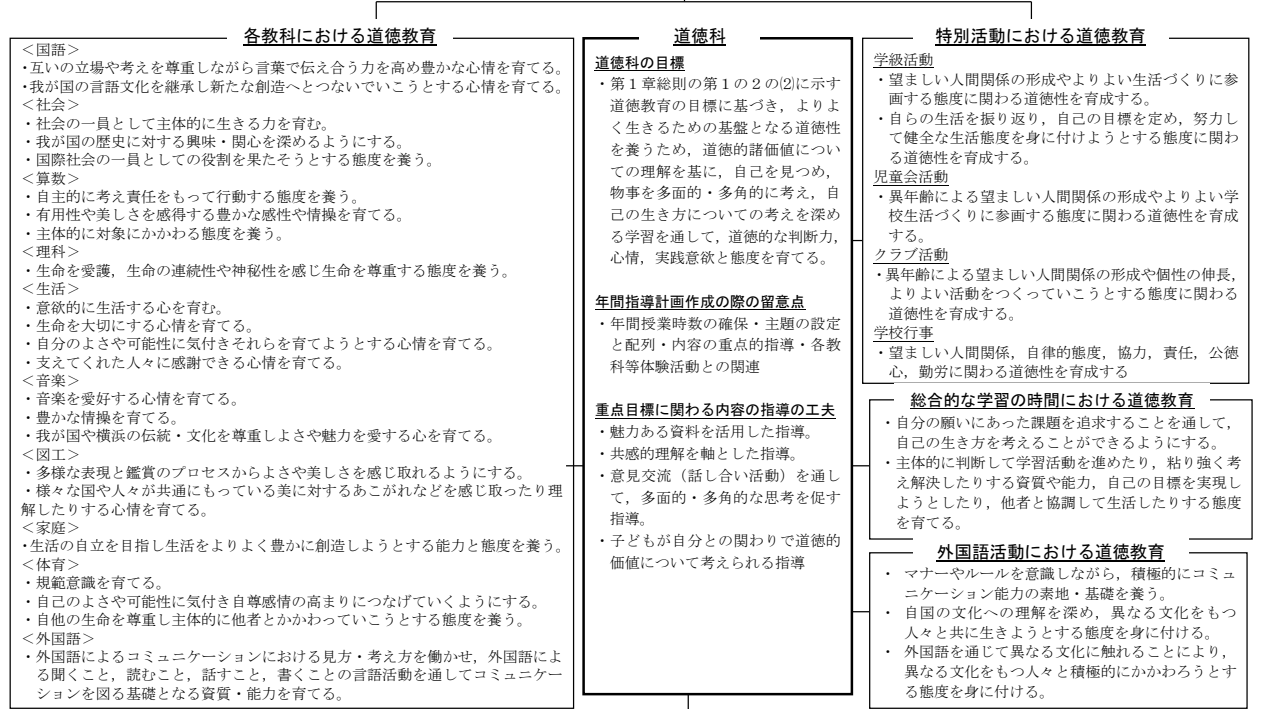
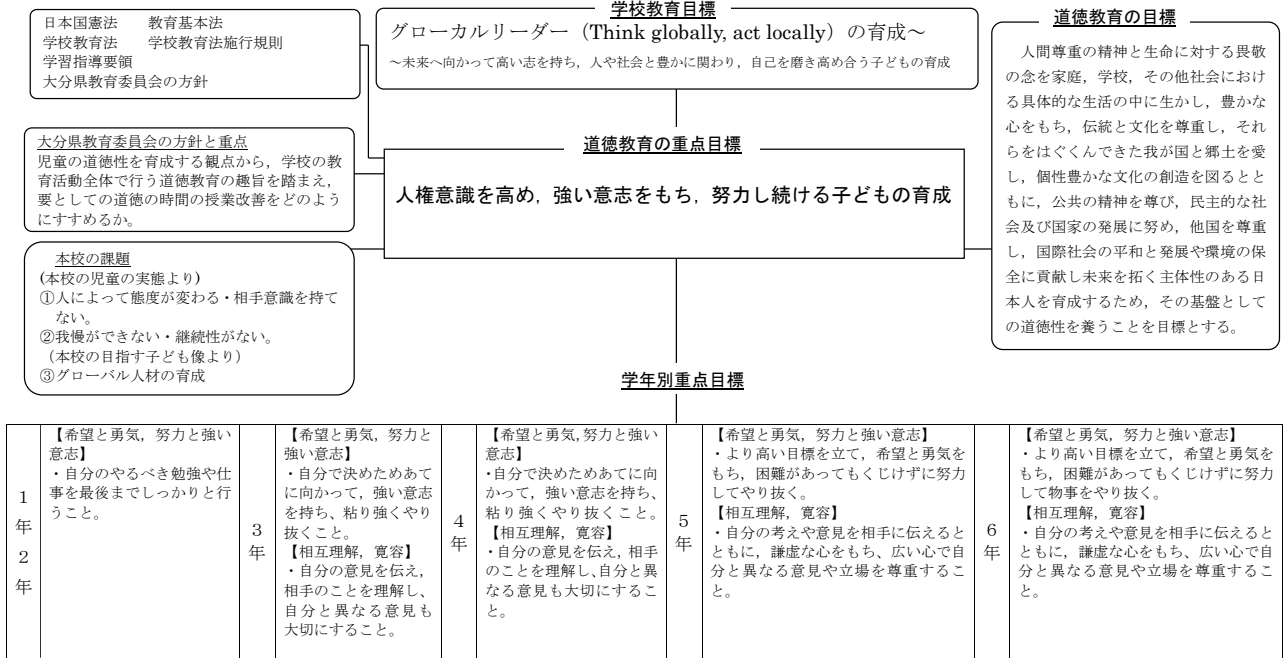
**家庭**

【PTAで保護者への周知】





## 道徳教育全体計画



令和5年度「性に関する指導」全体計画（一部修正）

「性に関する指導」全体計画

大分大学教育学部附属小学校

児童の実態	学校教育目標	小学校における性に関する指導の具体的目標
<p>○令和4年度大分県学力・学習状況調査の質問紙によれば、「自分にはいいところがある」などの自己肯定感に関する項目の値が高い。</p> <p>●遠距離通学の児童が多く、登下校時に性被害の危険も考えられる。</p> <p>●保健室来室時の聞き取りで、日々の習い事等、体力に相当しない活動を取り込んでいる児童も多く、睡眠時間の確保が課題となる児童も少なくない。</p>	<p>グローバルリーダーの育成 ～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自分を磨き高め合う子どもの育成～</p> <p style="text-align: center;">目指す子ども像</p> <p style="text-align: center;">高い志を持つ子、豊かに関わる子、磨き高め合う子</p> <p style="text-align: center;">性に関する指導の目標</p> <p>性に関する科学的知識を理解させるとともに、児童が生命と自己や他者の個性を尊重し、自ら考え、判断し、適切に行動できるようにする。</p>	<p>(1) 生命誕生及び自己の心身の発育における男女差や個人差に関する基礎的事項を理解し、自己の性を受容し、自分を大切にしようとする気持ちをもって行動できる。</p> <p>(2) 人の体の特徴や個人の発達の段階などに違いがあることを理解し、互いに相手の人格を尊重する気持ちをもって行動できる。</p> <p>(3) 各家庭における役割について家族で分担し、互いに助け合うことが大切であることを知り、家族や社会の一員として適切な判断や意思決定ができる。</p>

指導内容	学年	各学年のねらい
<p><b>【体の発育・発達に伴う性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女や個人による違い</li> <li>・性器を清潔に保つこと</li> <li>・精通や初経の仕組み</li> </ul> <p><b>【心理的な発達に伴う性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は愛情と保護によって育てられてきたこと</li> <li>・自他の生命を大切にしようとする態度</li> </ul> <p><b>【男女の人間関係から見た性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の協力、助け合い、自他を大切にしようとする態度</li> <li>・よりよい男女の人間関係</li> </ul>	1	体のつくりやはたらきについて初歩的な理解をさせ、清潔感を育てると同時に男女仲良く生活しようとする態度を養う。
	2	男女の体の違いや自分の誕生について知らせ、自分や自分を取り巻く人々を大切に生活する態度を養う。
	3	生命誕生について初歩的な理解をさせ、生命の尊さに気付かせるとともに、男女は人間として平等であり、お互いに協力し合い友達と仲良くしようとする態度を養う。また、性の被害や加害について考えさせる。
	4	思春期について理解し、発育には男女差・個人差があることを理解させる。また生命誕生について客観的に理解させ、自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。同時に正しい情報を自らの意志で選択できる態度を育てる。
	5	思春期についての理解を深め、男女相互の人格を認め合い、好ましい人間関係を築こうとする態度を養う。
	6	生命誕生の仕組みや生命の連続性について、自分とのかかわりの中で再認識させるとともに、異性への関心や欲求は自然なものでありお互いに尊重し合う自律心を養う。

学年	各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における指導内容(重点題材)
1	○たいせつなからだ(学活) ○トイレの使い方(学活) ○いきものなかよし(生活) ○いきているって(道徳) ○二わのことり(道徳) ○かぞくでいっしょにおしょうがつ(生活)
2	○生まれるということ(道徳) ○生きているってすごい!(生活) ○おへその話(学活) ○よかったよ(道徳) ○じぶんのことをもっと知りたいな(生活)
3	○こん虫を育てよう(理科) ○毎日の生活と健康(保健) ○ヌチヌグスージ～命のまつり～(道徳) ○プライベートゾーン(学活) ○百六さい、おめでとう、ひいおばあちゃん(道徳)
4	○生きているしるし(道徳) ○月経の手当て(学活) ○育ちゆく体とわたし(保健) ○男女の協力(学活) ○泣いた赤おに(道徳) ○ブラッドレーのせい求書(道徳)
5	○生命のつながり(理科) ○心の健康(保健) ○異性との関わり(学活) ○おばあちゃんからもらった命(道徳) ○情報化社会を生きる(社会) ○わたしと家族の生活(家庭)
6	○思春期と自分(学活) ○修学旅行事前指導(学活) ○コスモスの花(道徳) ○六年間をふりかえろう(学活) ○私たちの暮らしと憲法(社会) ○病気の予防(保健)

## 5. R5 附属小モデル

### (1) 附属小モデルの五つの柱

①授業改善 ○生徒指導の3機能＝人権尊重の3視点を活用した授業展開

人権尊重の3視点	・自己存在感を持たせる支援 ・共感的理解を育成する支援 ・自己選択、決定の場の設定
----------	---

○性に関する指導→知的理解

○各教科、特別活動、総合的な学習の時間→多様性を認め合う場（人権感覚）

②学級経営 ○生活指導 三つの取組（挨拶、掃除、履物揃え）

○学級経営 四つの取組（フリートーク、ほめ言葉のシャワー、価値語、成長ノート）

※これらの取組を通して、児童の自己肯定感や自己有用感を向上していく。

③道徳科 要の役割 （多様性に関する）道徳的価値等を考える機会の補充

道徳的価値の意味や自己とのかかわりについて考えを深化

道徳的体験に対する道徳的価値や自己とのかかわりを統合

④教員に求められるもの 教育内容の共通理解、児童に対する慎重な配慮、人権感覚の涵養

⑤家庭との連携 教育内容への理解、相談体制づくり（SC、SSWとの連携）



## (2) 各学年の道徳科授業のねらいと思考の系統性

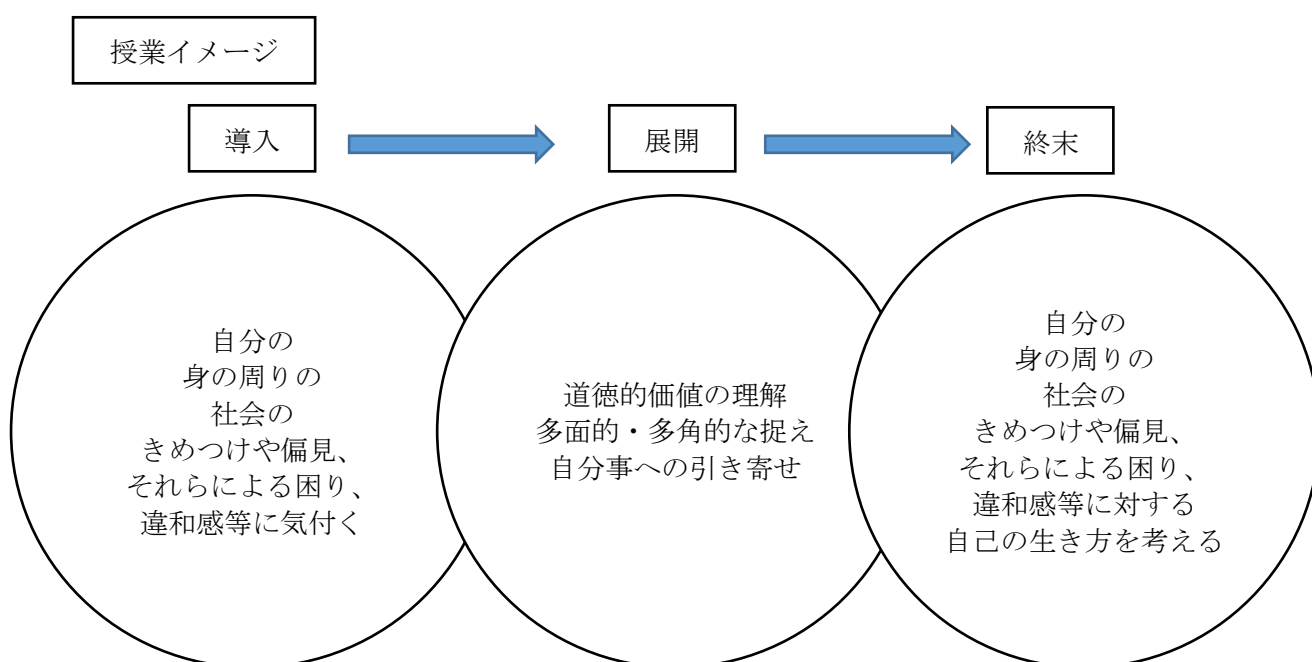
各学年の発達段階を踏まえた思考の系統性が見えてきました。また、多様性に関わる道徳科の内容項目は一つに限定できるものではないため、各学年関連する内容項目も設定しています。

学年	主題名	内容項目（関連する内容項目）	キーワード	
1年	らしさってなんだろう	C-11 公正、公平、社会正義 (A-4 個性の伸長)	色、好きな物 らしさ	思考の系統
本時のねらい	一人一人の好きな物や好きなことを認め合うことの大切さについて、白い帽子に塗った色を選んだ理由を話し合ったり、みんなの塗った色を見比べ、思ったことを話し合ったりすることを通して、性別に対する固定的な見方や思い込み、考え方をしていることに気づき、それらを認め合おうとする実践意欲や態度を育てる。			
2年	いろいろな家族のかたち	C-11 公正、公平、社会正義 (C-13 家族愛、家庭生活の充実)	家族、幸せ	身の回りの多様性を考える
本時のねらい	たまごちゃんが「どの家族に生まれてもいいなあ」と思ったことについて、それぞれの家族の幸せの在り方を話し合う活動を通して、自己の思い込みに固執せず家族のいろいろな形を認めていこうとする心情を育てる。			
3年	らしさについて考えよう	B-10 相互理解、寛容 (A-4 個性の伸長)	らしさ、 好きな人、取るべき行動	身の回りの多様性への自分の行動を考える
本時のねらい	自分や他の人の性のあり方を認め合うことの大切さについて、普段自分たちが感じている「〇〇らしさ」や自分の取るべき行動を話し合うことを通して、性別に対する固定的な見方や考え方をしていることに気づき、それぞれの性のあり方を認め合おうとする判断力を育てる。			
4年	きめつけをなくすために	B-10 相互理解、寛容 (C-12 公正、公平、社会正義)	男性、女性、きめつけ、 取るべき行動	社会での多様性に対する対応や自己の生き方を考える
本時のねらい	自分や他の人の性のあり方を含めた違いを認め合うことの大切さについて、普段自分達を感じているきめつけや、自分のとるべき行動を考えることを通して、性別に代表される固定的な見方や考え方をしていることに気づき、それぞれの性のあり方を含めた違いを認め合おうとする判断力を育てる。			
5年	マークが伝えるもの	B-11 相互理解、寛容 (B-7 親切、思いやり)	ピクトグラム、インクルーシブ、ジェンダーレス	
本時のねらい	多様性を認め合うために大切なことについて、ピクトグラムにこめられた思いについて考えたり、身の回りでピクトグラムと同じ考えで作られたものを探したりする活動を通して、様々な立場の人のことを思いやって過ごそうとする道徳的心情を育てる。			
6年	なりたい職業は？	A-5 希望と勇気、努力と強い意志 (B-11 相互理解、寛容)	職業、無意識 偏った見方	
本時のねらい	誰もが自由になりたい自分を目指していけるようにするために大切なことについて、男女別の職業イメージを交流し合ったり、誰もがなりたい職業につくために大切なことについて考えを出し合ったりする活動を通して、職業選択についての無意識なステレオタイプに気づき、性別等によって能力を制限することなく、いろいろなことに挑戦しようとする実践意欲と態度を育てる。			



### (3) 道徳科における多様性の授業イメージ

各学年の指導案より多様性の授業のイメージが明らかになってきました。道徳科の授業ですので、小学校学習指導要領に書かれている目標「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲及び態度を育てる。」が前提です。その中で導入では、多様性に関わる自分や身の回り、社会のきめつけや偏見、それらによる困りや違和感等に気付いていきます。展開では、多様性に関わる道徳的価値について理解を深めたり、多面的・多角的に考えたり、自分事として捉えたりしていきます。そして終末では、自分や身の回り、社会のきめつけや偏見、それらによる困りや違和感等に対する自己の生き方について考えを深めていきます。



## 6. R5 附属小モデル、各学年道徳科学習指導案

### 道徳科学習指導案

学習者 附属小学校 1 年生  
指導者 附属小学校 1 年部

#### 主題名 らしさってなんだろう

教材名「好きな色を塗ってオリジナル帽子を作ろう」

内容項目 C-11 公正、公平、社会正義

(関連する内容項目 A-4 個性の伸長)

※教材観、児童観、指導観は略

#### 本時の学習指導過程

<b>本時のねらい</b>	1 人 1 人の好きな物や好きなことを認め合うことの大切さについて、白い帽子に塗った色を選んだ理由を話し合ったり、みんなの塗った色を見比べ、思ったことを話し合ったりすることを通して、性別に対する固定的な見方や思い込み、考え方をしていることに気づき、それらを認め合おうとする実践意欲や態度を育てる。
<b>評価の着眼点</b>	1 人 1 人の好きな物や好きなことを認め合うことの大切さについて、白い帽子に塗った色を選んだ理由を話し合ったり、みんなの塗った色を見比べ、思ったことを話し合ったりしているかどうか。
<b>具体的な児童の姿</b>	「青がすっきりしていると思うから選んだよ。」 「同じ色が好きな人、違う色が好きな人、色んな人がいるな。」 「何色が好きでもいいんだな。」

時間	児童の活動	指導○及び留意点・ ※支援を要する児童への手立て	準備物
3 分	1. 好きな動物について発表する。	○好きな動物の違いから、一人ひとりの好きなものには違いがあるということに気付くようにする。 ・好きな色も違いがありそうか、またどんな違いがありそうか問い、めあてを位置付ける。	
<b>めあて</b> すきないろをぬって、オリジナルぼうしをつくらう			
8 分	2. 白い帽子のワークシートに好きな色を塗る。	○児童のロイロノートに白い帽子のワークシートを送り、自分の好きな色を塗るようにする。 ・色の傾向を捉えやすくするために、2色までの色の使用とすることを伝える。 ・塗り終わったワークシートを提出するようにする。	iPad (児童用)
4 分	3. 自分の塗った色について話し合う。	○自分が塗った色について、塗った理由を問う。	iPad (教師用)
<b>基本発問</b> じぶんのぼうしのいろをえらんだりゆうはなにかな。			
		【想定される児童の姿】 ・きれいで好きな色だから。 ・かわいいから。かっこいいから。	

10分	4. みんなの帽子の色を見比べて気付いたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「好きだから」と答えた児童には、どんな所が好きかを問う。</li> <li>・「かわいいから」「かっこいいから」といった言葉の傾向が男女で顕著な場合は、そのことについても考えるようにする。</li> <li>・数人に聞いた後、性別と色との固定観念が分かりやすいものを取りあげる。</li> </ul> <p>○児童が塗った帽子を一覧で提示し、気付いたことを話し合うようにする。</p>	iPad (教師用)
<b>中心発問</b> みんなのぼうしを見て、気づいたことはなにかな。			
15分	5. 性別によって思い込んでいることがないか考える。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色んな色がある。</li> <li>・同じ色を選んでいる人がいる。</li> <li>・男の子は青が多い。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色の種類や濃さなどの、児童の気付きの視点を持つようにする。</li> <li>・全体的な傾向とは異なる色や、男女共に共通して使われている色も採り上げながら、性別と色の固定観念に気づくことができるようにする。</li> <li>・身近な色の例として、トイレのマークの色を提示し、男子が青系、女子が赤系とは決まっていないこと、誰が何色が好きでもよいことをおさえる。</li> </ul> <p>○おもちゃ、遊び、スポーツなど、性別により好みが見分けられそうなものを採り上げ、好みにも多様性があることを理解するようにする。</p>	iPad (教師用)
<b>基本発問</b> 男の子は～、女の子は～、とおもっていることはないかな。			
5分	6. 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子は～、女の子は～、という理由で自分と異なる考えがあってもよいことや、一人一人の好きな物を認め合うことのよさに気づくようにする。</li> </ul> <p>※考えを持ちにくい児童がいた場合は、性別により好みが見分けられそうなTV番組やおもちゃの写真を掲示し、自分の考えを持てるようにする。</p> <p>○これまでの学習から自分の好きな色だけでなく、生活面において、「男の子は～」、「女の子は～」、という気持ちに変容があったか、どのように感じたのかという視点で振り返りを書くようにする。</p>	ワークシート

# 道徳科学習指導案

学習者 附属小学校2年生  
指導者 附属小学校2年部

## 主題名 いろいろな家族のかたち

教材名「たまごちゃん、たびにでる」

内容項目 C-11 公正、公平、社会正義

(関連する内容項目 C-13 家族愛、家庭生活の充実)

※教材観、児童観、指導観は略

### 本時の学習指導過程

<b>本時のねらい</b>	たまごちゃんが「どの家族に生まれてもいいなあ」と思ったことついて、それぞれの家族の幸せの在り方を話し合う活動を通して、自己の思い込みに固執せず家族のいろいろな形を認めていこうとする心情を育てる。
<b>評価の着眼点</b>	家族には、様々な形があることを知り、家族が幸せに生活するために大切なことは何かを話し合っているか。
<b>具体的な児童の姿</b>	「どの家族もニコニコしていて楽しそうだな。」 「いろんな家族がいるんだな。」 「家族にはその家族しかないよさがあるんだな。」 「思い込んだりきめつけたりしてはいけないんだな。」 「自分の家族の形以外にもいろんな形があるんだな。」

時間	児童の活動	指導○及び留意点・※支援を要する児童への手立て	準備物
3分	1. これまでの経験を想起し、本時のめあてを確かめる。	○家族にはどんな人がいるか、児童の実生活や経験から想起するようにする。 ※自分の家族の構成員を問うのではなく、どんな人がいるかを問い、家族について詳しく分からないように配慮する。 【想定される児童の姿（発言）】 ・お父さん。お母さん。おじいちゃん。子ども。 ・家族にはどんな人がいるか共有できたところで、めあてを位置付ける	iPad (教師用)
<b>めあて</b> 家ぞくがしあわせにくらすのに何が大切か考えよう。			
10分	2. 資料を読み、内容を把握する。	○資料を読み、どんな家族が出てきたか問い、様々な家族が出てきたことに気付くようにする。 【想定される児童の姿（発言）】 ・ママが2人のねこの家族。 ・ママが1人のかばの家族。 ・パパが2人いるペンギンの家族。 ・ヒョウとライオンの家族。	iPad (教師用) 挿絵
<b>基本発問</b> どんな家ぞくが出てきたかな。			



20分	3. 家族のよさについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言と挿絵を関連付け、視覚的にも分かりやすいようにする。</li> <li>・様々な家族がいることを、児童の発言から全体で共有するようにする。</li> </ul> <p>○様々な家族に出会ったたまごちゃんが、「どの家族にうまれてもいいなあ」と思ったところを全体で共有し、たまごちゃんがなぜそのように思ったのか問う。</p>	ワークシート
<p><b>中心発問</b> たまごちゃんが、どのかぞくにうまれてもいいなあと思ったのはどうしてかな。</p>			
12分	4. 家族の幸せを視点に振り返りを行う	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿（発言）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの家ぞくも楽しそうだから。 ・ニコニコしているから。</li> <li>・いろんな家ぞくがいるから。 ・幸せそうだから。</li> <li>・その家ぞくにしかない良さがあるから。</li> <li>・家ぞくの形はいろいろあっていいから。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの家族の表情にも着目することで、どの家族も優しい顔をしていることに気付くようにする。</li> <li>・様々な家族の形があっても、どの家族も幸せそうに暮らしていることを児童と共有する。</li> <li>・たまごちゃんがどの家族に生まれてもいいなと思った理由を考え全体で交流することで、いろいろな家族の形があり、それぞれに幸せがあることに気付くようにする。</li> <li>・一つの考えに集約するまとめは行わない。</li> </ul> <p>※「家族の人数＝幸せ」になることがないように、教師側が発問に気を付け、どの児童も幸せを感じることができるよう配慮する。</p> <p>○家族が幸せに暮らすにはどんなことが大切か問い、これからの実生活につながるように振り返りをする。</p>	挿絵
<p><b>基本発問</b> 家ぞくがしあわせにくらすのに大切なことは何かな。</p>			
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿（発言）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の仕事をきちんとする。</li> <li>・かんしゃの気もちをもつ。</li> <li>・家ぞくのことを大切にす。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸せについて具体的に考えることで、家族が幸せに暮らすためには何が大切か気付くようにする。</li> <li>・児童から出た発言を全体で交流することで、家族が幸せに暮らすために大切なことが家族によって様々あることに気付くようにする。</li> <li>・家族の形や幸せについて分かったことや考えたことを振り返りに書き、これからの実生活につながるようにする。</li> </ul>	ワークシート

# 道徳科学習指導案

学習者 附属小学校 3 年生  
指導者 附属小学校 3 年部

## 主題名 らしさについて考えよう

副教材名 「いろいろな性ってなんだろう？ (仮)」

内容項目 B-10 相互理解、寛容

(関連する内容項目 A-4 個性の伸長)

※教材観、児童観、指導観は略

### 本時の学習指導過程

<b>本時のねらい</b>	自分や他の人の性のあり方を認め合うことの大切さについて、普段自分たちが感じている「〇〇らしさ」や自分の取るべき行動を話し合うことを通して、性別に対する固定的な見方や考え方をしていることに気づき、それらを認め合おうとする判断力を育てる。
<b>評価の着眼点</b>	自分や他の人の性のあり方を認め合うことの大切さについて、普段自分たちが感じている「〇〇らしさ」や自分の取るべき行動を話し合っているかどうか。
<b>具体的な児童の姿</b>	「男の子と女の子で好きな物が決まっていると思っていたな。」 「どんな性別でも同じように接することが大事だな。」

時間	児童の活動	指導〇及び留意点・ ※支援を要する児童への手立て	準備物
5 分	1. 制服の話を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇制服の話をした際の板書の写真を掲示し、誰がどんな制服を選んでもよいことや、自分で服を選べることの心地よさを想起するようにする。</li> <li>・男子がスカートを履くことについて問い、児童の違和感を受け止めながらめあてを位置付ける。</li> </ul>	iPad (教師用)
<b>めあて</b> 自分や他の人の性のあり方を大切にするには、どうしたらよいか考えよう。			
10 分	2. 「〇〇らしさ」について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇「女らしさ」、「男らしさ」を決めつけていると感じていることがないか問い、その際の気持ちを共有するようにする。</li> </ul>	iPad (教師用)
<b>基本発問</b> 自分が「女らしさ」「男らしさ」を決めつけていると感じるときはあるかな。			
		<p>【想定される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「男なのに足が遅い」と言われたとき。</li> <li>・女の子だからスカートをはかないといけないとき。</li> </ul>	
20 分	3. 自分の取るべき行動について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童からの発言が無いときは、教師が自分の経験を語り、発言しやすい雰囲気を作る。</li> <li>・児童が決めたことだけでなく、自分が決めつけられた経験や、決めつけていると感じていることを聞く。</li> <li>・決めつけていると感じたときの嫌な気持ちを共有し、次の活動につなげる。</li> </ul>	ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> <li>〇人の性のあり方を認めなかったり、笑ったりするような事例を挙げ、自分の取るべき行動について問う。</li> </ul>	

10分	<b>中心発問</b> 自分の取るべき行動は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例として①「女の子だから」「男の子だから」と決めつけること、②同性のアイドルを好きになること③好きな人（異性）を聞くこと、④カミングアウトされることを採り上げる。</li> <li>・行動だけでなく、その行動を選んだ理由を問う。</li> </ul>	ワークシート
	4. 本時の学習を振り返る。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【想定される児童の姿】</b></p> <p>①「女の子だから」「男の子だから」と決まっていないから、勝手に決めつけない。</p> <p>②好きな人が異性とは限らないから、変だと思わない。</p> <p>③「オカマ」「オネエ」などは相手が嫌な気持ちになるから使わない。</p> <p>④人の性のあり方はいろいろあるので、笑ったりからかったりしない。友だちのことを言いふらさない。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助発問として「悪気がなかったらよいか」「少しだけならよいか」を問い、悪気のあるなしに関わらず、自分の言動で傷つく人や、小さな言動も積み重なって苦しむ人がいることに気づくようにする。</li> <li>・一つの考えに集約するまとめは行わない。</li> <li>・アウティングは、その人の居場所を奪ったり、プライバシーの侵害になったりするため、絶対にしないことを児童と共通理解する。</li> <li>・実際に相談されて一人で抱えきれない場合は、信頼できる大人（保護者や先生、保健室の先生、カウンセラー等）に相談する方法もあることを伝える。</li> </ul> <p>○これまでの学習から自分のこれまでの友達への接し方を振り返り、今後周りの友達にどのように接していくかをワークシートに書くようにし、その後ペアや全体で認めていくようにする。</p>	
	<b>基本発問</b> 周りの友達にどのように接したいかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が発言できるようにペアで話すようにする。</li> </ul>	

# 道徳科学習指導案

学習者 附属小学校 4 年生  
指導者 附属小学校 4 年部

## 主題名 きめつけをなくすために

内容項目 B-10 相互理解、寛容  
(関連する内容項目 C-12 公正、公平、社会正義)

※教材観、児童観、指導観は略

### 本時の学習指導過程

<p><b>本時のねらい</b> 自分や他の人の性のあり方を含めた違いを認め合うことの大切さについて、普段自分たちが感じているきめつけについて考えたりきめつけをなくす上で大切なことについて話し合ったりすることを通して、性別に代表される固定的な見方や考え方をしていることに気づき、それらを認め合おうとする判断力を育てる。</p> <p><b>評価の着眼点</b> 自分や他の人の性のあり方を含めた違いを認め合うことの大切さについて、普段自分たちが感じているきめつけや自分の取るべき行動を話し合っているかどうか。</p> <p><b>具体的な児童の姿</b> 「世の中には多くの違いがあるけれど、それぞれの違いを認めることが大切だ。」</p>
---

時間	児童の活動	指導○及び留意点・ ◎評価(方法) ※支援を要する児童への手立て	準備物
7分	1. ACのCM「聞こえてきた声」を視聴し、誰が話しているか考える。	○ACのCM「聞こえてきた声」を視聴することを通して、誰が話しているか考え、話し合うようにする。	iPad (教師用)
	<b>基本発問</b> どんな人の声(音)かな？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰が話している声か」と問い、そう思った理由と合わせて発表できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【想定される児童の姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・料理しているのは、きっとお母さんだ。</li> <li>・赤ちゃんの泣き声に反応しているのはお母さんだ。</li> <li>・パイロットになる夢を発表しているのは、男の子だ。</li> <li>・経営方針を話しているのは男性じゃないかな。</li> <li>・会社の説明は女性もするでしょ。</li> <li>・パイロットに女性がなってもいいんじゃない。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性や女性、どちらと決める必要がないなどの発言が受けて、本時のめあてを立てる。</li> </ul>	
	<b>めあて</b> きめつけをなくすにはどうすればよいか考えよう。		
8分	2. 自分たちの周りのきめつけについて考える。	○「自分たち周りがあるきめつけはあるか」と問い、自分たちの周りがある違いに目を向けるようにする。 ・男女別トイレや更衣室など身体的な性で区別されているものを取り上げ、きめつけと区別は異なることを確認する。	ワークシート
	<b>基本発問</b> 自分たちの周りには、きめつけがあるかな？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な例を出し合うことを通して、何の違いで決めつけが起こっているか考えるようにする。</li> </ul>	



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通じて、児童が性別だけでなく、趣味趣向の違いや環境の違いなどによって相手との違いを受け入れられない状況を捉えるようにする。</li> <li>・「違いがあって当然」、「人の数だけ違いがある」などの考えを取り上げたり、きめつけられたりしたらどう思うかと問い、嫌な気持ちを共通理解して、課題を立てる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【想定される児童の姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制服は自分で選べるけど、性別できめつけてそう。</li> <li>・ランドセルの色は性別でなんとなく色を選んでいる。</li> <li>・見るアニメやマンガも性別で判断してそう。</li> <li>・料理は女性がつくる物と思い込んでいる。</li> </ul> </div>	
<b>中心発問</b> 世の中にあるきめつけをなくすために、どんなことが大切かな？			
15分	3. 自分の取るべき行動について話し合う。	<p>○課題に対して、自分たちにできることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに自分の考えを書くようにする。</li> <li>※自分の考えをもていない児童については、具体的な事例を取り上げ、「このきめつけは何が問題か」声掛けを行い支援する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【想定される児童の姿】</b></p> <p><b>【違いを認めること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人によってそれぞれ好きな物や興味のある物は違っていいから。</li> <li>・人によって考え方が違うから。</li> </ul> <p><b>【偏見をなくすこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うわさ話や人から聞いたことを鵜呑みにしてしまうと他人を傷つけてしまうことがある。</li> <li>・自分の思っていることが誰にとっても正しいわけではないから。</li> </ul> <p><b>【個人の尊重】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が大切な人だから、その人の気持ちが大切にされないといけないから。</li> </ul> </div>	ワークシート
10分	4. 性の多様性について教材を基に確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助発問として「悪気がなかったらよいか」「少しだけならよいか」を問い、悪気のあるなしに関わらず、自分の言動で傷つく人や、小さな言動も積み重なって苦しむ人がいることに気づくようにする。</li> <li>・一つの考えに集約するまとめは行わない。</li> </ul> <p>○「保健」の学習を振り返り、身体的な性と心の性が異なることを確認し、性の多様性についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的な性は外見的看着てわかることが多いが、心の性は内面的なものであり、他者では判断しにくいこともあることをおさえる。</li> <li>・アウティングは、その人の居場所を奪ったり、プライバシーの侵害になったりするため、絶対にしないことを児童と共通理解する。</li> <li>・相談されて一人で抱えきれない場合は、信頼できる大人（保護者や先生、保健室の先生、カウンセラー等）に相談する方法もあることを伝える。</li> </ul>	
5分	5. 本時の学習を振り返る。	<p>○これまでの学習からきめつけをなくすために自分がしていくことをワークシートに書くようにし、その後ペアや全体で認めていくようにする。</p>	ワークシート
<b>基本発問</b> 周りの友達にどのように接したいかな。			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が発言できるようにペアで話すようにする。</li> </ul>	

# 道徳科学習指導案

学習者 附属小学校 5 年生  
指導者 附属小学校 5 年部

## 主題名 マークが伝えるもの

教材名「マークが伝えるもの」(光村図書『道徳5』より)

内容項目 B-5 相互理解、寛容

(関連する内容項目 B-1 親切、思いやり)

※教材観、児童観、指導観は略

### 本時の学習指導過程

<b>本時のねらい</b>	多様性を認め合うために大切なことについて、ピクトグラムにこめられた思いについて考えたり、身の回りでピクトグラムと同じ考えで作られたものを探したりする活動を通して、様々な立場の人のことを思いやって過ごそうとする道徳的心情を育てる。
<b>評価の着眼点</b>	自社会には様々な理由で暮らしにくさを感じている人がいることを理解し、その人たちのために様々な取り組みがなされていることや、多様性を認め合うために自分の取るべき行動を話し合っているかどうか。
<b>具体的な児童の姿</b>	「点字ブロックにこめられた思いを知り、上に物を置かないようにしたい。」 「様々な立場の人を認め合いながら生活することが大切なんだな。」

時間	児童の活動	指導○及び留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
3分	1. 多様性について考え、本時のめあてについて知る。	○「多様性とはどのような意味でしょうか。」と問い、これから学習することについて考えるようにする。  【想定される児童の姿】 ● 様々な様子があること？ ● いろんな人を認めるといふこと？ ● よくわからないな。	iPad (教師用)
<b>めあて</b> 「多様性」について考えよう。			
8分	2. 教材文を読み、ピクトグラムにこめられた思いについて考える。	○教材文を読んだ後、「ピクトグラムを作った人はどんな思いを込めてピクトグラムを作ったと思いますか。」と問い、どのような思いでピクトグラムは作られたのかについて考えるようにする。	
	<b>基本発問</b> ピクトグラムを作った人はどんな思いを込めてピクトグラムを作ったと思いますか。	【想定される児童の姿】 ● どんな人にも役立つマークを作りたい。 ● 日本語が分からない人だけでなく、どんな人にも分かるように作ったと思う。 ● 自分たちが工夫すればみんなが分かりやすくなる。 ● 社会を住みよくしたい。 ・ピクトグラムがあることで住みやすくなっている人がいることを確認し、次の活動へつなげる。	

4分	3. 社会で住みにくくなっている人について考える。	○他にどのような理由で住みにくくなっている人がいるのかについて考えるようにする。	
15分	<b>基本発問</b> 他にどのようなことが原因で社会で住みにくくなっていると思いますか。		iPad (児童用)
	4. 身の回りでピクトグラムと同じ考えで作られたものについて考える。	<p>【想定される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 性別      ● 年齢      ● 人種      ● 体型</li> <li>● 肌の色   ● 宗教   ● 食習慣   ● 障がい</li> <li>● 利き手   ● 国籍</li> </ul> <p>・様々な理由で暮らしにくさを抱えている人がいることを確認し、次の活動につなげる。</p> <p>○ピクトグラムのように「どんな人にとっても住みよい社会」にするために社会にあるものについて考えたり、iPadを使って調べるようにする。</p>	
10分	<b>中心発問</b> 身の回りでピクトグラムと同じ考えで作られたものにはどのようなものがあるでしょうか。		
	4. 「多様性」について、自分なりの考えをまとめる。	<p>【想定される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 男の人でも女の人でも入れるジェンダーレストイレ</li> <li>● 目の不自由な人でも外を歩くことができる点字ブロック</li> <li>● 異なる肌の色に対応したバンドエイド、絵文字</li> <li>● 右利きでも左利きでも使えるはさみ</li> <li>● インクルーシブデザイン、ユニバーサルデザインのもの</li> </ul> <p>※ 考えることが難しい児童には、活動の途中でどのようなものがあったか他の児童に尋ね、調べる際の手がかりになるようにする。</p> <p>・これらの施設や器具には誰もが暮らしやすくなってほしいという思いや、違いを認め合いながら一緒に過していきたいという思いがこめられていることを確認し、次の活動へつなげる。</p> <p>○「多様性」について、児童の言葉で自分なりの考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【まとめ】</p> <p>「多様性」とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● どんな人にとっても住みよい社会ということ。</li> <li>● 様々な立場の人を認め合うということ。</li> <li>● 違いを受け入れるということ。</li> </ul> </div>	
5分	5. 本時の学習を振り返る。	<p>・一つの考えに集約するまとめは行わない。</p> <p>○これまでの学習から自分のこれまでの友達への接し方を振り返り、今後周りの友達にどのように接していくかをワークシートに書くようにし、その後ペアや全体で認めていくようにする。</p>	
	<b>基本発問</b> 「多様性」について考えたことを書きましょう。		
	・全員が発言できるようにペアで話すようにする。		

# 道徳科学習指導案

学習者 附属小学校 6 年生  
指導者 附属小学校 6 年部

## 主題名 なりたい職業は？

内容項目 A-5 希望と勇気、努力と強い意志  
(関連する内容項目 B-5 相互理解、寛容)

※教材観、児童観、指導観は略

<p><b>本時のねらい</b></p> <p><b>評価の着眼点</b></p> <p><b>具体的な児童の姿</b></p>	<p>誰もが自由になりたい自分を目指していけるようにするために大切なことについて、男女別の職業イメージを交流し合ったり、誰もがなりたい職業につくために大切なことについて考えを出し合ったりする活動を通して、職業選択についての無意識なステレオタイプに気づき、性別等によって能力を制限することなく、いろいろなことに挑戦しようとする態度を育てる。</p> <p>誰もが自由になりたい自分を目指していけるようにするために大切なことについて、記述や発言に、無意識に持っていた性別による職業選択の偏った見方に気づいたり、性別によって能力を制限せず挑戦していく良さを感じたりしている表現があるか。</p> <p>「幼稚園の先生は、女の人の方が優しいから女の人になるものだと思っていたけど、優しさに男女は関係ないし、女の人がするものだというのも勝手なイメージだったな。」 「男だから、女だからなどと言った勝手な考えは自分の可能性を狭めてしまう。勝手なイメージに左右されず、自分はどんな人になりたいか考えて挑戦していきたい。」</p>
--	---

### 本時の学習指導過程

時間	児童の活動	指導○及び留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
5分	1. 本時のめあてを立てる。	○男女の将来なりたい職業の調査結果を見て感想を發表し合い、めあてを提示する。	iPad (教師用)
	<p><b>めあて</b> 誰もがなりたい職業を自由に選べるようにするために大切なことを考えよう。</p>		
15分	2. 男女の就く職業のイメージについて話し合う。	○男女それぞれが就く職業についてのイメージを出し合い、無意識にある偏った見方についての考えを出し合わせる。	ワークシート
	<p><b>基本発問</b> 男女別の職業にどんなイメージを持っているか、どんなイメージを聞いたことがあるか。</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人でワークシートにイメージマップを広げていく。</li> <li>・ 全体交流ではなぜそのようなイメージがあるのか理由とともに発言させ、板書のイメージマップに位置づけていく。</li> <li>・ 「男性がするイメージの職業は女性にはしてはいけないのか」「女性は優しいということは男性は優しくないのか」などと、性別による職業や性格という視点で問い</li> </ul>	

20分	3. 誰もがなりたい職業に就くために大切なことについて考え話し合う。	<p>かけることで、自分たちの見方は社会の状況や経験に左右されている事に気づくことができるようにする。</p> <p>○誰もがなりたい職業に就くために大切なことについて、「自分」「周りの人たち」それぞれが自由に職業選択できるようにという視点で考えを出し合わせる。</p>	ワークシート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>中心発問</b> 誰もがなりたい職業につくために大切なことは何か。         </div>			
5分	4. 本時の学習を振りかえる。	<p>・考えを共有する際には、「自分が」「周りの人が」という視点ごとに分けて板書に整理していく。</p> <p>・職業選択に男女は関係ないというニュアンスの発言に対して、「職業を考える際に大切なことは何か」と問いを与えることで、「男女」ではなく、「能力」「願い」「好み」などといった個々人「個性」を大切にしてい く大切さに気づかせる。</p> <p>○「自分のために」「周りの人のために」という2つの視点で職業についてこれからどのように考えて生きていくかという思いを記述できるようにする。</p>	ワークシート

## 7. R5 取組総括

### 【全体総括】

- ◇全校で共通理解を図りながら、道徳科の中で全学年全学級が多様性の授業を行った。授業を行うことで学年ごとのねらいに対して、児童は自分なりの行動や考えを表現することができた。また、多様性の授業を行う上で、児童の思考の系統性が明らかになった。
- ◇今年度が初の試みであり、単元構想や授業展開について各学年が模索しながら授業に臨んだ結果、様々な成果や課題が出た。学校教育目標の達成のためにも、今回の成果・課題や、先進的な情報等をもとに、単元構想や授業展開を検討し、今後も道徳科の授業を要とした多様性の授業を行うことが必要である。次年度は多様性の授業の単元化、または多様性の授業を中心としたカリマネ、そして他校種との連携を模索しながら取り組んでいく。

昨年度の生徒指導提要の改訂、また次年度の本校での制服の選択の広がりから、本校で多様性を認め合う教育の重要性が高まってきた。これらのことから、本校では、学部と連携しながら、道徳科における多様性の授業に全校で取り組んだ。今回の取り組みにどのような成果や課題があり、今後どのように取り組むべきか、各学年の振り返りを中心に総括する。

今年度の取り組みの一つ目の成果は、道徳科の授業として多様性の理解を広げられたり、深められたりしたことである。多様性について道徳科としての見方・考え方である「自分ごととして捉える」ことや「多面的・多角的に捉える」児童の姿が、どの学年の授業においても見られた。

二つ目の成果は、全学年で多様性の授業に取り組んだことにより、低学年では「自分の身の回りの多様性を考える」、中学年では「身の回りに対する自分の行動を考える」、高学年では「社会での多様性や自己の生き方を考える」という、多様性に対する思考の系統性が明らかになったことである。自身にある身の回りの色や家族に対する偏見に気付くことが低学年の段階でもできていた。中学年では、自身にある偏見に気付きながら、今後の自分の行動を考えることができていた。高学年では、自分事として考えるだけでなく、職業やピクトグラムなどに対する公のイメージを児童が語ることができていた。このように、小学生の発達段階に応じて無理なく授業の中で児童の姿として確認できたことは、次年度以降の授業構想につながると考える。

一方、今年度の取り組みの一番の課題は、一時間の授業の中で児童の考えの深まりが十分にできなかったことである。理由としては、導入を丁寧に進めたり、扱う教材が多かったりしたことで児童の考える時間を確保できなかったことや、内容として深く掘り下げにくい教材を扱ったりしたことが挙げられる。また、学部と開催している道徳研究会の中では、多様性についての道徳の価値項目が多岐に渡り、一時間の道徳科の授業の中で行うことが難しいという指摘をいただいた。また、LGBTQ等の知識については、発達段階に合わせてどのように学習していくか、養護教諭等と連携しながら考えていく必要がある。今後他校種との連携も図るならば、四校園を通した見通しも重要になってくる。

これらのことから次年度も、多様性の授業を全校で取り組んでいく必要がある。特に今年度の課題から次年度は、一時間ではなく複数時間で多様性について扱っていく、つまり多様性の授業の単元化（パッケージ化）、または多様性の授業を中心としたカリマネが今年度の改善につながると考える。また、教員側も研修や授業改善を通じ、多様性についての理解を進め、日常の児童のモデルになると同時に、児童の発達段階や実態に即してねらいを明確化し、教材を選んだり授業展開を検討したりしていくことも重要



である。そして、四校園を通した見通しを持つために、附属幼稚園や附属中学校、附属特別支援学校と連携を図り、子どもの交流のテーマとしたり、お互いの実践を交流したりしていきたい。

## R5 多様性の授業各学年の振り返り

### 振り返りの視点

校内研の視点	道徳科としての視点	具体
I ねらいへと向かわせるためのめあて・課題の位置づけ方	①授業内容を自分事として捉えることができたか	・他人事ではなく自分の問題としているか ・自己の生き方に結びつけているか
II ねらいに迫る手立ての効果	②授業内容を多面的多角的に捉えることができたか	・多様な立場に立って考えているか ・多様な考えを引き出せているか ・多様性を認めていくための様々な価値に気づいているか

#### 【1年】

##### 1. 成果

- ① ・児童それぞれが自分の考えをもち、自分の生活とつなげようとしていた。  
・児童がこれからも考え続けていきたいという気持ちを持っていた。
- ② ・児童が色で自分が決めつけてしまっていることに気づくことができた。

##### 2. 課題

- I ・導入と展開部（深めるところ）のつながりが難しかった。
- 他 ・多様性に関する知識（LGBT など）を発達段階に合わせてどう学習していくか、学校全体としての見通しも必要と感じた。

##### 3. 改善策

- I ・ねらいを「性」とするか「それぞれが好きなもの」でいくかで教材も変わってくる。来年度1学年部がどこをめざすかで新たなものを考えてもよいのではないか。
- 他 ・今後四校園でつくっていくのであれば、保護者の活動の1つとしても位置づくような促しがあるとより多様性について質が高まると思う。

#### 【2年】

##### 1. 成果

- ① ・家族が幸せになるために自分にできることを児童が考えられた。
- ② ・初めは自分の家族の形しか知らなかったが、授業の終わりには様々な家族の形があることに気付いていた。振り返りにも書いていた。

##### 2. 課題

- ① ・児童が教材を読んで最初に感じたこと（幸せそう）が振り返りでも出したいことだったので、児童の理解や考えが深まった感じがしない。
- ② ・学習内容が家族についてのことで、あまり深く掘り下げられない繊細な内容だった。1人親家庭への配慮が必要だった。

### 3. 改善策

- ② ・教材がストレートすぎたので、フォローが必要な発言が出かねない内容だった。教材については精選が必要。

### 【3年】

#### 1. 成果

- ① ・カミングアウトに対する対応として、「大丈夫」等の表面的な声かけだけではなく、「話してくれてありがとう」という当事者に寄り添った発言が出た。
  - ・児童が自分の行動を最終的に選ぶことができた。
- ② ・色んな事例を知ることができた。
  - ・事例に対する「自分ならどう考えるか」という問いで、児童が自分の考えを出すだけでなく、当事者の気持ちも考えることで多面的に捉えることができた。

#### 2. 課題

- ① ・事例を自分事として結びつけることが難しい。(ピンとこない、いいことを言おうとする)
- ② ・事例が4つと多かったことで、考える時間が短くなった。
  - ・ゲイのカミングアウトの事例では、児童に知識が無かったことで、説明に時間がかかった。

### 3. 改善策

- ① ・LGBTQ等の知識を事前に入れておくと効果的
    - ・同性のアイドルを好きになる事例は、憧れと混同し区別できないため採り上げない方がいい。
  - ② ・事例を絞って色んな立場の思いを考えていくことも大事。
    - ・当事者の気持ち(知ってほしい気持ちと知られたくない気持ちの葛藤)に気づかせる必要がある。
- 他 ・単元として数時間のスパンで取り組むことが効果的
- 例) 1 決めつけに気づく「～らしさ」、2 LGBTQを知る(養護教諭と連携、資料活用)、3 カミングアウト・葛藤場面を考える

### 【4年】

#### 1. 成果

- I ・自分のものの見方が偏っていたことに気付き、もっていないものの見方を獲得した。
- II ・導入で使った動画がよかった。
  - ・前日の保健指導(身体的な性)と結び付けて指導することができた。

#### 2. 課題

- I ・本当にその場面に出会ったら等、ゆさぶる発問ができなかった。
- II ・導入が長すぎて、めあてまでの時間がかかった。

### 3. 改善策

- I ・学習活動の精選
- II ・導入で採り上げる場面を減らす。

## 【5年】

### 1. 成果

- ① ・ふり返りの中に他教科とつなげて、「外国の方のために分かりやすいものを作りたい」という思いをもったり、身近なものに含まれた多様性の考え方に気づいたりできていた。
- ② ・多様性について見方・考え方が広がる授業ができた。
  - ・「多様性」を性に偏らずに学習できた。
- 他 ・「多様性」という言葉の意味・考え方に子どもが触れ、考えることができた。

### 2. 課題

- I ・課題が児童の思考に合っていなかった。
- ① ・「性」の面では、自分事に十分にはできなかった。
- 他 ・「性の多様性」にはどのくらい踏み込めばよいか。

### 3. 改善策

- 他 ・1時間では終わらない。日常での声かけ、授業で話題に出したり、適宜指導したりしていく。

## 【6年】

### 1. 成果

- ① ・子どもが知らず知らずのうちに偏見があることに気づいた。
  - ・多様性を1番のねらいにしないことで、児童が自分のキャリアについて考えることができた。

#### 【児童の振り返り】

- 「偏見は誰もがもっているものだから、向き合って考えていく必要がある。」
- 「自分の見方・考え方によって人におしついたり傷つけたりしないようにしたい。」
- 「社会的イメージに流されずに自分に合っている職業を選びたい。」
- 「なりたい職業に挑戦していくために大切な考え方を学ぶことができた。」

### 2. 課題

- ① ・揺さぶり、問い直しが足りなかった。
- ② ・授業構成として、教師側が男女意識があると決めつけていた。
  - ・職業について考えるときに、個人と友達の視点のみで考えさせて、社会や世の中の関係から捉えることができなかった。

### 3. 改善策

- ① ・指導案のめあては児童にとって必然ではなかったので、もう少し簡単にする。
- ・児童は偏見があることに気づいていないことが多いので、偏見を認識するための手立てが必要。

## 8. 参考資料

- 生徒指導提要 令和4年文部科学省
- 『性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ』 平成30年倉敷市教育委員会
- 『「道徳科」評価と授業構想の在り方改訂版』 令和2年大分県教育委員会
- 人権の「授業作り」のすすめかた vol.2 令和4年大分県教育委員会



児童がお互いの多様性を認め合うための附属小モデル（令和5年度版）

令和5年 大分大学教育学部附属小学校